

九州北部豪雨災害から5年 ～市民のみなさんにお伝えしたいこと～

平成24年7月に発生した「九州北部豪雨」から5年。中津市では、この記憶を風化させることなく、未来の災害への貴重な教訓として活かしていくため、出水期を前にした6月1日号の市報で自助・共助に対する日頃からの取組みについて、市民への注意喚起を行いました。

今回、運用を開始する「中津市防災ポータルサイト」についても、防災意識を高めるために利用しやすいページにしていますが、ツールを整備しても活用しなければ真の防災対策とは言えません。

そこで、災害に対する危機管理について市民のみなさんにお伝えしたいことを改めて整理しました。

1. 自助に関する取組み

① 情報入手手段を把握しておきましょう。

災害の発生が予想される場合には、様々な情報手段を活用し、情報を確認することが重要です。ポータルサイトには、各関係機関の情報(雨量・水位・河川映像等)をまとめており、サイトを見ることで、中津市に關係する様々な情報の取得が可能となります。

避難所名	所在地
南部公産庫	中津市1468番地(穿野)
城北中学校	中津市字小坂525番地11
南部小学校	中津市1309番地(三ノ丁)
南部幼稚園	中津市1282番地1(三ノ丁)
小幡記念図書館	中津市1366番地1(内堀町)
中津城公園	中津市1278番地1(二ノ丁)

② 地域の状況を確認しておきましょう。

日頃から、自分が住んでいる地域には、どのような災害の危険があり、どこが危ないのかを把握しておき、安全な避難ルートや避難場所を確認しておく必要があります。

ポータルサイトには、市内のハザードマップを掲載しており、地域の状況確認ができます。

③ 家族内で連絡方法を確認しておきましょう。

家族が離ればなれになったときの連絡方法や避難場所について確認しておくことが重要です。ポータルサイトには、地域毎の避難所一覧を掲載しており、地図も表示されています。

④ 備蓄を心がけましょう。

食糧・水等を一定量備蓄しておきましょう。ただし、賞味期限がある食料等については、一遍に大量備蓄しないで、カップラーメンやパン等も活用し、日頃から食べた分だけ補充していくような(ローリングストック)方法で備蓄することが効果的です。

ポータルサイトには、備蓄しておいた方がよい備蓄一覧を「防災チェックリスト」として掲載しております。

防災チェックリスト

＜いつも目につく場所に備蓄し、自備から確認するよう心掛けましょう＞
災害時の持出品・備蓄品のチェックリストです。
※この際、自身の環境に合わせて必要なものを準備しておきましょう。

- 生活用品など**
 - 飲料水 (1人1日3リットル×4日分)
 - 非常食 (7日間×2食、缶詰、インスタント食品など)
 - 懐中電灯と予備電池
 - 衣類・タオル
 - 手袋・軍手
 - 雨具 (レインコートなど)
 - 寝具の敷き、垫
 - ティッシュ (空エレットタイプ)
 - マスク
 - マシキまたはタイター
 - ローソク
 - 医薬品 (常備薬を含む)
 - アルミ製保温シート
 - 防寒用のビニールシート
 - 風呂敷
 - 防水用ラップ
 - 万能ナイフ
 - ヘルメット
 - 笛 (救助を求めるときに使用)
 - 消火器と救急セット (乳幼児がいる家庭)
 - 使い慣れたおちち・いざごらるる家庭)
- 貴重品**
 - 現金
 - 身分証明書
 - 印章
 - 防災用金
 - 健康保険証
- 情報収集用品**
 - 携帯ラジオ
 - 携帯電話と充電器
 - 衛星電話
 - 防災マップ
 - 電話用の小銭
- 防災用品**
 - ヘルメット
 - のこぎり
 - かざり
 - はしこ
 - シャベル
 - ハンマー
 - スコップ
 - ロープ

備蓄しておくよいもの

- 缶詰
- カップ麺
- 下着
- タオル
- 靴下
- 乾電池
- 懐中電灯
- 防災用品
- シャンプー (水を使わないもの)

ローリングストックの法で無駄なく確実に備蓄しよう!

ローリングストック法とは、非常食となる日頃の食糧 (レトルト食品、缶詰など) を多めに買い、食べた分を切り替えていくことで、常に家庭に新しい食糧が備蓄される方法です。

※非常食には、「賞味期限から消費期限が大差が過ぎている」という状態が確認されています。賞味期限が経過しているものは、必ず消費期限を確認し、消費期限が経過しているものは、必ず消費期限が経過する前に消費してください。ローリングストック法で、無駄なく確実に、非常食を備蓄しましょう。

2. 共助に関する取組み

①日頃から地域との交流を持ちましょう。

大規模な災害が発生した場合、公的な支援はすぐには期待できません。公的な支援が行われるまでの間は、地域の皆さんで災害を乗り切っていく力が必要となります。災害時、スムーズに地域のみなさんで助け合うには、日頃からの地域内での交流が欠かせません。

②防災訓練や防災研修会に参加しましょう。

市内では現在、地域における自主防災組織の設立や自主防災組織による防災訓練などの活動が活発に進められています。みなさんも、地域で防災訓練や防災研修会などが開催される場合には、ぜひ積極的に参加し、地域内での交流を図ることで、地域防災力を高めてください。

3. 災害の種別に応じた注意事項

防災ポータルサイトには、災害の種別に応じた注意事項について、それぞれ掲載しています。

土砂災害を防ぐために

土砂災害を引き起こす主な原因は、降雨、融雪等です。気象情報等に注意して早めに避難することが大切です。

土砂災害の種類

斜面崩壊（がけ崩れ）

急な崖や山の斜面が突然崩れ落ちる現象を、斜面崩壊（がけ崩れ）といいますが、国内でも毎年のように土砂災害で、一瞬にして取り返すことが出来ず、多くの被害が起きています。このような被害を生じる恐れのある箇所を「土砂災害危険箇所」といいます。

土石流

土砂と水が混ざり合った土・石・砂が大雨による水ととも一気に斜面を流れ下る現象です。スピードが早く破壊力も大きいため、大きな被害をもたらします。このような被害を生じる恐れのある箇所（溪谷や小川）を「土砂災害危険箇所」といいます。

地すべり

粘土などの土や石の層の上にある斜面が、しみ込んだ雨水の重量などでゆっくり動き出す現象です。一度に広い範囲が動いた上、おそれる被害が大きいです。このような被害を生じる恐れのある箇所を「地すべり危険箇所」といいます。

土砂災害の心構え

こんな看板は要注意

土砂災害が発生するおそれのある地域内、この様な看板が立っていることがありますが、自分の家の近くにならぬよう注意して見てください。

危険な箇所を調べておこう

地図マップなどで自分の住んでいる場所が、危険箇所かどうか、確認しておきましょう。

避難の道筋を決めておく

避難する際に危険な場所がないか確認し、あらかじめ決めておきましょう。

浸水災害を防ぐために

雨量の目安	1時あたりの雨量の目安	周囲の状況
5~10mm	5~10mm	雨の音がよく聞こえ、あちこちに水たまりができる。
10~20mm	10~20mm	雨音で会話ができなくなり、地面一面に水たまりができる。
20~30mm	20~30mm	どしゃぶりになり、数滴や水たまりがなくなる。
30mm以上	30mm以上	バケツをひっくり返したような激しい雨で、視界が不透明になる。

大雨浸水時の注意点

河原では

河原などでは、上流の豪雨による急な雨水や土砂崩壊の危険があります。雨の止まらないうちに河原に近づかないこと、近づいたら、もし河原にいたら、すぐに避難してください。すみやかに避難を。

車の運転中は

豪雨の際は視界が思い通りに見えなくなり、操作が難しくなることがあります。できるだけ道路の中心線より車線内を走り、視界を確保しながら、ゆっくりと進んでください。急ブレーキを踏まず、エンジンも止めてください。

路上で浸水してきたら

高層ビルやマンション、その周辺のビルやテナントビルなど、高層ビルやマンションなど、なるべく高層階に上ることをおすすめします。

避難方法

足元に注意

水中のマンホールや溝に注意し、長い棒を杖代わりにして確認しましょう。階段を歩いたら、必ず手すりを握りましょう。

歩ける水の深さ

男性は70cm、女性は50cmが限界です。水深が限界以上であるときは、高いところへ避難しましょう。

子供やお年寄りを安全に

足が不自由なお年寄りや病弱い、小さい子供はベビーカーに乗せる方法もあります。

ロープにつなごう

小さい子供などは大人とロープをつなごう。

■問合先：防災危機管理課 担当：鳴
(TEL：0979-22-1111・内線 271)

南海トラフ地震の発生を想定した職員初動体制訓練を実施

○訓練実施日：平成29年5月20日（土）

○訓練想定：午前7時に南海トラフを震源とする震度5強の地震が発生したことを想定

○訓練内容：①職員安否及び参集確認訓練
②避難所開設訓練
③災害対策本部会議開催訓練

○訓練結果

①職員安否及び参集確認訓練

◇全職員を対象に専用メールを配信し、職員の安否及び参集確認を実施。

◇参集可能人員：1,065人中886人（83.19%）が参集可能。

◇参集可能時間：1時間以内が750人、3時間以内が117人、24時間以内が19人。

◇参集状況の集計に要した時間：約3時間。

②避難所開設訓練

災害時に最初に開設する避難所34ヶ所を指示により実際に開設。

開設に要した時間は、平均で23分であった。

③災害対策本部会議開催訓練

午前10時に対策本部会議を開催し、本日実施した訓練結果の報告を行うとともに、課題について検討を行った。



【避難所開設訓練の様子】



【災害対策本部会議開催訓練の様子】

○今回の訓練での課題

メールを確認出来ていない職員もいたことから、今後、周知徹底を行うこととした。

○今後の取組み

災害対応の練度をより高めるために、組織内での意見を積み上げ、全庁を挙げてこうした訓練を積み重ねていくとともに、市民も参加した災害発生時の対応訓練も視野に入れた取り組みも検討していくこととする。

■問合先：防災危機管理課 担当：鳴

(TEL：0979-22-1111・内線271)